ISHIKAWA NON-PROFIT ORGANIZATION NEWS
いしかわNPOニュース
VOL 35
2009 SUMMER
夏季号

特集 NPOをまわす運営術その① 資金編
NPOの資金力を磨こう
活動資金の調達と助成金

●ちょっと気になる、いしかわのNPO
NPO法人 一歩一歩楽園

●いしかわのNPO
猫の避妊と去勢の会
どぼんこ・さるたひこ地域協議会

●ジュニアVOICE
大聖寺高等学校

シリーズ
協働をすすめる ワークショップ入門①
『ワークショップを計画する』

●書籍紹介コーナー

●インフォメーション
・県からのお知らせ
・助成金ニュース

つながる、
ひろがる、
ふれあう。

石川県NPO活動支援センター
URL http://www.ishikawa-npo.jp

NPOの資金力を磨こう 活動資金の調達と助成金

石川県NPO活動等社会貢献活動参加促進事業の一環として、平成21年3月18日石川県広坂庁舎4階「あいむ」にて、上記セミナーが開催されました。その模様を一部紹介します。助成金獲得のヒントとしてください。
それでは日本NPOセンター理事・事務局長 田尻 佳史さんのお話です。

●助成金はどこが出しているか知っていますか?

よく助成金の申請の方法を聞きたいと私のところへ相談に来られます。そのとき聞くのですが、「10個以上、自分の活動テーマを満たしてくれる助成金を知っていますか。」

・・・そうなんです。ここがスタートですよ、助成金は。では、どうやって探すのですか。今はインターネットがあります。福祉とか助成とかいうキーワードを入力すればたくさん出てきます。もしくは、助成財団センターというようなところがあります。そこがデータベースを作っていますからすぐ探せます。この2か所で10ぐらいはすぐ見つかると思います。まずそのリストを作ってください。できれば10。何で10か、なぜだと思います？同じところから毎年ももらえません。それが1つ。

2つ目。応募期間が財団によってバラバラだからです。皆さんの欲しいお金のタイミングと申請のタイミングが合うかどうかです。

それから、もう1つのポイント。一番やらなきゃいけないのが分析です。過去に助成した団体、テーマ、助成金はどこにどういう形で出されたかというデータが全部公開されています。それを分析してください。そうすると、その財団なりの助成金の癖がわかります。ここは新しいものにどんどん出しているな、珍しいものに出しているな、ここはわりと安全なところにしか出していないな、など傾向がわかってきます。

●情報を共有しよう

これはなかなか難しいのですが、助成金をもらったらNPO同士で情報交換するんです。しかし、NPOは、ちっちゃなパイの取り合いを恐れて情報を隠したがるんです。これではいつまでたっても助成金を獲得できません。

助成団体の過去のデータを見て、助成を受けたNPOに恥をしのんで電話して「どうやってもらいました?」「使いやすいですか?」って聞いたらいいんです。

[特集]NPOをまわす運営術 その① 資金編

それでももらうのに数年かかりますから。そうやってNPO側が情報交換して財団や助成金の担当者より「一枚上手」に行かないとなかなかもらえません。

●申請書はわかりやすく

僕も審査をやってますが、すっごい汚い字で書かれたら読む気がなくなって大体落ちるんです。読めないから頭に入ってこない。でも、きれいな字で書いてあったらすーっと読めるのでわりと高得点がつくんです。そういう意味では、あんまり堅苦しいこと、難しいことは書かない。専門的な用語に陥らない。あるんです。医療系の申請を見ていると、家庭の医学書を出してきて、「これ何やろ？」みたいのが。そういうの、大体落ちます。中学生ぐらいが読んでもわかるぐらいの内容をきちっと書いてあげると、読む側には親切。そういうところはいい得点がつきます。

●助成の対象も変化していく

地域福祉で一番身近なところでは、「赤い羽根共同募金」。これはぜひ皆さん申請してください。もらえても、もらえなくても申請し続けてください。今、ここがどんどんNPOとか地域の団体に助成していこうと強化しています。申請がないとニーズがないということで広がらないんです。ここの場合、「地域福祉」という文言が申請書に入っていればいいのです。

「裏の川が汚い、臭くて生活するにも苦痛だ、川をきれいにするのは地域福祉だ。そこに住むお年寄りや子供たちも参加してもらって町を挙げてきれいにしていくことが住みよい街をつくるんだ。」という提案書を書けば、これは地域福祉の範囲に入るわけです。活動の分野とすれば環境活動ですが、そういう解釈をいかにしていくかです。

●インパクトと発展性を伝えよう

ちょっと話が長くなりますが、この間面白い審査がありました。

関東地方の、そこはちっちゃな酪農（仔牛を買ってきて、2年ぐらい育て、成牛として売る）を家族経営している地域で、そこに20年前精神科の病院が引っ越してきました。住民は大反対でした。関係は非常に悪い。そうこう時間がたって行くうちに、自立する患者さんの為に病院のそばに自立センターみたいなものをつくりました。

20年経ちますと、当時40代50代で夫婦でやってた酪農は、60代70代となり、子どもは都会へ出て、担い手不足。5頭・6頭の牛のお世話も、おじいちゃん倒れた、おばあちゃん介護につきっきり、やっていけなくなるんですね。餌毎日やらないといけない。

そこに目を付けたのが病院です。病院の自立センターでは、酪農もやっていたんです。その人たちは技術を持っているわけです。その人たちが助けに行くことができるんじゃないかということで、この病院が助成金を申請してきたんです。

そのテーマがおもしろいんです。「牛のホームヘルパー養成」のための助成金。牛のホームヘルパーですよ。すごいでしょう。なんかそれだけで目を引くでしょう、精神障害者の自立に向けての事業といわれるより。

それで何をするかといったら、過去、精神疾患を持っていた人を理解してもらうための講座を開きたいと。これが成功したんですね。小屋の掃除だけしてくれとか、餌やりの時間、1時間だけ来てくれとか、ニーズは山ほどありました。

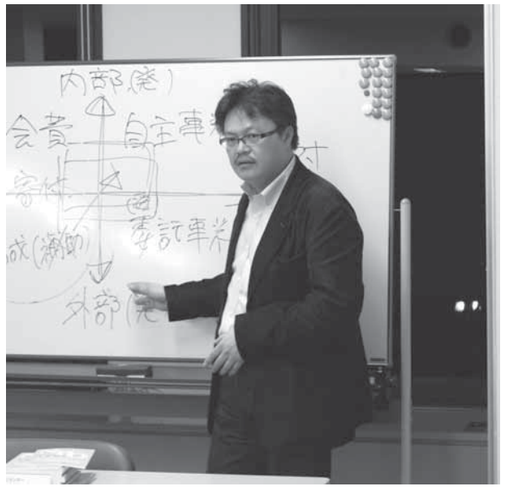
2年目の助成はどうしようか、継続は難しいけど内容によってはという話をしていたら、来ました。次のテーマ、すごいですよ。「牛のショートステイ事業」。ホームヘルパーの次はショートステイ。もうそれだけで決まりみたいな。これもちゃんと理由があるんですね。過去、精神疾患を持っていた人が家の中に入ってくることに対して拒否があると。それと、おじいちゃんが入院したら、おばあちゃんが付き添わなならん。牛だ

助成金の話で熱く語る田尻 佳史さん

れも面倒みれん。じゃ、自立センターの方にスペースを設けて、1週間お預かりしますと。その牛が逃げないように、施設の周辺に電気線を走らせる申請をしたいと。

これは、ネーミングの面白さももちろんですが、ちゃんと事業がステップアップしているでしょう。こういうのは審査する側にとっては非常に良いプログラムなんです。今年この事業で申請して、こういうことができれば2年後、3年後にはこういうところまでステップアップさせたいと思います、というようなことが1行書いてあるかどうかで、長期計画でこれ出してきているんだな、じゃ1回応援しようという話になります。そういう事業をぜひ申請してください。

今回のセミナーを企画したNPO法人iねっと事務局長 青海 康男さんが司会進行を務めました

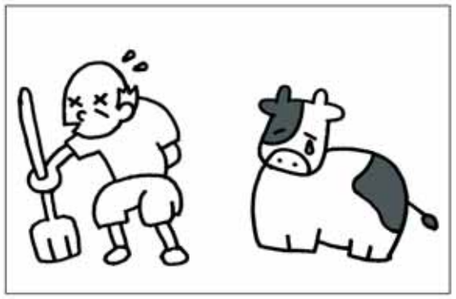


田尻 佳史 氏（たじり・よしふみ）
特定非営利活動法人
日本NPOセンター理事・事務局長

大学卒業後、ケニアに渡り、現地のNPOが運営する養護施設にて4年間メンバーとして関わる。帰国後、大阪ボランティア協会の職員となり、特に企業や労働組合の社会貢献活動推進の企画担当者として従事。1996年11月より日本NPOセンターへ出向となり、2001年7月より日本NPOセンター事務局長。

編集委員会では「インパクトと発展性」のお話を四コママンガにしてみました

引っ越してきた病院が自立センターのようなものを作りました。



地域の酪農世帯はやがて高齢化が進み、牛のお世話が大変になりました。

病院は「牛のホームヘルパー養成」のための助成金を申請し、酪農もやっていた自立センターで地域に貢献できる仕事をつくりました。

2年目には「牛のショートステイ事業」を申請。今度は1週間牛を預かる事業に発展させました。

ちょっと気になる、いしかわのNPO Vol21

NPO法人 一歩一歩楽園
『3世代交流で 農から学ぼう』

子どもたちと、安心・安全な作物を育てながら…

「お爺ちゃん、お婆ちゃん」と呼ばれる世代になった自分たちと、子育て真っ最中の親たち、そしてその子どもたちの3世代が一緒に「農」をすることで汗を流し、お互いに「育てる喜び」を感ずる。これが一歩一歩楽園の活動の目的で、今年で2年目になります。と宮下邦昭代表。

昔は、同居していたお年寄りが孫たちに「しつけ」など教えることができたが、近年、核家族化が進み、共稼ぎが増え、子どもたちとのふれあいの時間が少なくなり、「しつけ」などの教育が疎かになってきている。

そこで、3世代一緒になって作物を育てることによって、「育てる喜び」、「思いやりの心」、「感謝する心」などを親子ともども育むことができればと願ってます。

一歩一歩楽園では、800坪の休耕田を、田んぼ、共同菜園、個別菜園に分け、今年5月には、100人以上の親子さんたちが参加して、昔ながらの手植えで泥んこになりながら田植えをしました。さらに「さつまいも」も植え、9月にはみんなでそれらを収穫する喜びを体験します。

昨年11月の収穫祭では、子どもたちが収穫した米で塩と梅干だけでおむすびをにぎり、米の旨味を味わいました。

◀収穫祭でおにぎりをつくる子どもたち

お爺ちゃん▶とイチゴの収穫を楽しむ

◀初めてさつまいもの苗を植える

泥んこになりながら稲の苗を手植えをする▶

何気ない会話から「人への心配り」が育つ

個別菜園は1区画約25㎡で20区画を、会員がそれぞれ好きな物を育てる場所です。安心・安全が一番大事なので無農薬の野菜を育てています。しかし素人さんが多いので、「藤五郎塾」を開催し、講師より鍬の使い方から畝の作り方、種や苗の扱い方など教わりました。

私たちは作物をつくることだけを目的としているのではありません。子どもたちと一緒に苦労をして育てた作物を家族で「食べる喜び」も味わって欲しいのです。

また、菜園では仲間たちに会うと、「こんにちは」「立派に育ったね」「このわき芽をとらんなんぞいね」、子どもたちには、「お手伝いえらいね」「ウチんとこでナスビなったから持っていかんか」「代わりにこのトマトあげるよ」とか……、声を掛け合ったりしています。

「そういう菜園での何気ない日常会話を通じて自分のことより『人への心配り』を大切にする人に育っていってくれるのではないでしょうか。」と代表の宮下邦昭さんは熱く語ってくれました。

〒921-8174 石川県金沢市山科町ヲ35−5
NPO法人 一歩一歩楽園
URL :http://www.ippoippo-rakuen.org/
E-mail: info@ippoippo-rakuen.org

猫の避妊と去勢の会

代表　桐畑 陽子
（石川県ペットインフォメーション）
http://info.pet.littlestar.jp/

設立の経緯

昨今、猫トラブルが多く「のらねこが子を産んだ」「庭でフンをする」「畑を荒らす」「鳴き声がうるさい」などなど。これらは飼い主のモラルの低さ、人間関係のコミニュケーション不足なども原因です。何の罪もない子猫達は山や川に捨てられ、あるいは保健所での殺処分という哀れな最後を迎えます。これら猫達の現状を知ってもらうために活動を始めました。

活動の内容

「共に生命(いのち)嫌いボクのこと?」と題して小さい頃から生命の大切さを訴える自作の紙芝居を作成し、保育園・幼稚園・小学校等へ巡回。おかげさまで100回を超え、平成20～21年には絵本の寄贈もしました。

▼H21.5.
めいてつエムザにてねこのパネル展開催

毎年5月には、めいてつ・エムザにて「猫のパネル展」を行います。今回で4年目となりました。回を重ねる毎に人々の感心が高まってきています。また、啓蒙啓発の言葉をラジオCMで流したり、動物愛護週間(毎年9/20～9/26まで)には、自作の愛護ポスターを作り、県内700か所に配布します。

また、木越町のスタッフ宅にて、子猫譲渡会、里親さんが決定すれば“会”自作の「迷子札」の取り付け、また「のらねこ」と呼ばれる猫達の避妊・去勢活動を行っています。

平成21年4月に環境省は、「動物を遺棄・虐待することは犯罪です」のポスターを石川県警察本部に200枚、その他県内各所に300枚配布しております。

人も猫も地球上の「共に生命(いのち)」一日も早く共存できる日が来るよう活動を続けます。

どぼんこ・さるたひこ地域協議会

〒929－2214
七尾市中島町小牧　小牧会館内
TEL 090-4325-2219
E-mail dobonko@pony.ocn.ne.jp
http://dobonko.web.fc2.com

設立の経緯

私たちが活動する七尾市の西岸地区は、前面には七尾北湾、背面には棚田や山林が広がる風光明媚なところです。かつては半農半漁の生活を営んでおり、こうした風土から豊作、豊漁を感謝する国指定重要無形民俗文化財「熊甲二十日祭の枠旗行事（通称、お熊甲祭）」などの祭りや、豊作を願う「虫送り」といった独特の民俗を生み出し、現在でも連綿と継承されています。

お熊甲祭を詠んだ俚謡でこんなフレーズがあります。「お熊甲の太鼓を聞けば　足がヒョイヒョイしてならぬ」「お熊甲は　大旗小旗　十九神輿の鉦・太鼓」。とても賑やかな様子が謡われています。しかし、今では人手不足で祭りに参加できない集落があるなど寂しくなっています。「このままじゃ、ダメやろ。何かできんかいや」そういう熱い想いから中島町横見、田岸、外、小牧、深浦集落の各壮年団が立ち上がり『どぼんこ・さるたひこ地域協議会』を設立しました。

ふるさとの“いやさか”を実現するため、三つのテーマで活動をしています。キーワードは「結（※当地の方言で“エー”と呼称する）」です。

活動の内容

一つ目は地域と学生等の若者との間に結を築き、学生等の若者は祭りで神輿や枠旗を担ぎ、虫送りで松明を掲げて水田を歩くなど地域に活力を提供する、地域は「山、里、海」といった地域資源を学生等に提供するものです。

二つ目は地域間連携の強化で、お熊甲祭と形態が近く、かつ祭日を異にする新宮祭、六保祭に参加する集落と新たな結を築き、地域間相互で支え合う体制をつくります。

三つ目は後継者の育成として地域の子どもたちに、自らの住むふるさとの素晴らしさを再認識してもらえるよう、各種ふるさと教育を開催し、地域の担い手として育成します。

「エー(結)」とは双務的な労働力の交換をいいます。
旧中島町には特徴的なものとして祭りのエーがあり、
ムラ同士で祭り人足の貸し借りが行われています。

どぼんこ・さるたひこ地域協議会
（会長 津田 晃）

新刊・おすすめ図書 紹介コーナー

子どもと学ぶボランティア
―「こっちょ」のボランティア授業論―

著　者　：鳥居一頼
発　行　：社会福祉法人大阪ボランティア協会
価　格　：1260円(税込)
初　版　：2008年5月

子どもたちから「こっちょ」と呼ばれた著者が、子どもたちとの真剣な授業の中から創造した、子どもを粗末にしない「ボランティア授業論」。子どもと出会い、共に育つ場に関わるすべての人に贈る1冊。

これまで社会的責任投資やフェアトレード、マイクロクレジット、NPOバンクなど個別に解説した本はあったが、これらを包括的に、かつ経済の構造的な問題まで踏み込み、専門家以外にも分かりやすく書いた本。

おカネで世界を変える30の方法

著　者：田中 優+A SEED JAPAN エコ貯金プロジェクト
発　行：合同出版
価　格：1365円(税込)
初　版：2008年1月

おしゃれなエコが世界を救う
―女社長のフェアトレード奮闘記―

著　者　：サファイア・ミニー
発　行　：日経BP社
価　格　：1575円(税込)
初　版　：2008年5月

利益よりも、人を大切に。世界の環境・貧困・人権問題と闘うためにフェアトレードビジネスを創業。15ヶ国の生産者と提携し、世界から注目を集め、ファッション・ブランドを成功させた社会企業家の自伝エッセイ。

シリーズ

協働をすすめるワークショップ入門
その① 『ワークショップを計画する』

金沢市協働をすすめる市民会議　福多 唯

協働は、理念だけでは進まない。だったら協働のプロセスを体験できるワークショップで「プチ協働」してみては？　このシリーズでは、人と人との出会いから協働での目的達成までを学ぶセミナーについて、具体的に紹介します。

協働の推進のために、『協働経験・実践者』を輩出する仕組みをつくる

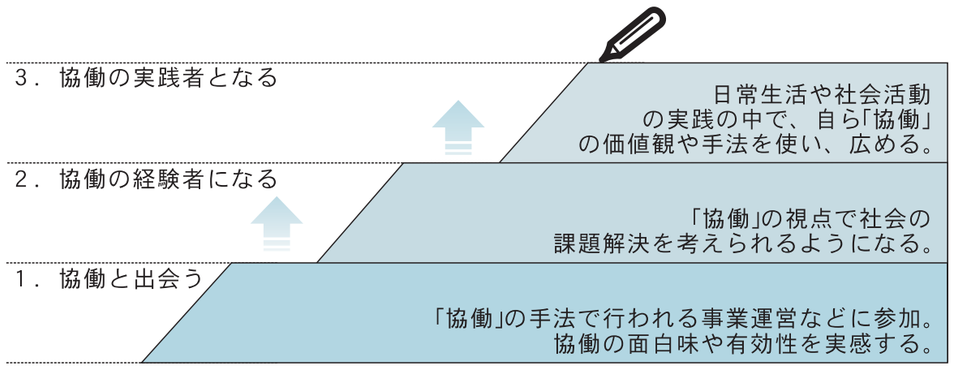
一般的に、「協働」とは、何らかの社会的課題を解決するためにふたつ以上の組織が対等な立場で力をあわせることと言われます。従来からの馴染んだやり方に固執せず、お互いの違いを乗り越えて、新たなプロセスや手法で課題に取り組むことができるかどうかが「協働（事業）」の成否を左右します。その新たなプロセスや手法が、「～せねばならない」ものとしてではなく、面白味があり、有効だと実感されれば、その経験者と広め手を社会に増やすことは困難ではなくなります。

「協働」が社会に浸透するには、「協働」という手法の面白味や有効性を実感した人が、「協働」の手法を取り入れて実践することが不可欠でしょう。「協働」は、協働事業が増えれば進むというものではありません。

《**『協働経験・実践者』を輩出するためのしくみ作り**》も重要です。

協働を体験し、実践できる人を増やすワークッショップ

「協働」を知らなかった人がそれを知り実践者となるまでを、以下の３つのステップとして整理してみました。



これを見ると『１．協働と出会う』のステップが全ての土台になることがわかります。ならばここをワークショップ(体験型セミナー)としてはどうでしょう。より多くの人が、より低いハードルで、「プチ協働体験」ができる機会を設けるのです。

ワークショップ内容は、あえて『１．協働と出会う』に焦点を合わせます。ここで満ち足りた体験ができてこそ、参加者は２や３のステップに進めるようになります。

協働との出会いのプロセスとワークショップ内容

以下に協働との出会いのプロセスをさらに細分化してみました。
ワークショップでは各プロセスを辿りながら、ポイント事項を体験的に学ぶことができます。
ここではワークショップを1回2時間、原則一週間置きに全4回＋αで実施した例(※)を紹介します。
（※　金沢市と「協働をすすめる市民会議」による人材育成事業。2008年～）

第1回　出会い、お互いを知る
「こんにちは」

この回で押さえたい「協働」のポイント
- 対等なやりとりと関係性
- 同じ地域に住む者同士としての絆づくり
- 心を開いた対話

ワークショップでの心配り、工夫
- リラックスできる場所作り（例：座布団＋車座など）
- 「親近感」や「共通の話題」を見つけやすいしかけ
- ゲーム的手法を導入して楽しくする
- 会話を促進／コントロールする小物を使う（例：お茶とお菓子、タイマーなど）

連載第2回（36号）でくわしく紹介します。

お楽しみに！

第2回 他の人と共にプロジェクトを見つける
第3回 実施のためにのプランを練る
「一緒だね」 ➡ 「なにしよか」

この回で押さえたい「協働」のポイント
- 自主的・自発的にかかわる
- 目的・目標を最後まで共有し共に行動する

ワークショップでの心配り、工夫
- 各自の「関心事」にひそむ共通点をみつける
- 全員が参加しやすい方法を選択
- 話し合いを進めやすいワークシートを用意
- プラン作成には充分に時間をとる
- 必要に応じてプランを練り直す

連載第3回（37号）でくわしく紹介します。

お楽しみに！

★ 課題に取り組む（協働で事業を行う）
※ワークショップ参加者への「宿題」。

（それぞれで実践してきてもらうために、期間を3週間程度と長めに取る。）

この回で押さえたい「協働」のポイント
- 運営の公平性・透明性
- 各自の個性や能力・事情に即した役割分担

第4回　取り組みについてふりかえる
「やってみました！」

この回で押さえたい「協働」のポイント
- 発言機会の公平性
- ふりかえり内容を可視化（記録）

ワークショップでの心配り、工夫
- 発表や報告の手法を互いから学ぶ
- 試行錯誤することを大切にする
- 発言機会は平等に
- 肯定的かつ相手に受け入れられやすいコメント方法を学ぶ

連載第4回（38号）でくわしく紹介します。

お楽しみに！

＋α．次のステップにつなげる

この回で押さえたい「協働」のポイント
- 「より良い協働のために、自分達に必要なものは何か？」を自発的に考える

ワークショップでの心配り、工夫
（例）
- 資金管理や獲得手法
- コミュニケーションスキル
- 広報や宣伝
- 役割分担の見直し

INFORMATION

県からのお知らせ

「NPOだるま落としセミナーin金沢」

NPOの立ち上げ、運営に関する基礎知識を習得する「だるま落としセミナー」を開催します。
また、セミナー開催日を除く毎週水曜の夜は、なんでも相談できる「NPOサロン」を開設しています。

●NPOだるま落としセミナー

平成21年 7月25日(土) 15:00～17:00 NPO活動の基礎
平成21年 8月26日(水) 19:00～21:00 NPOの会計
平成21年 9月 2日(水) 19:00～21:00 協働ってどんなもの
平成21年 9月26日(土) 15:00～17:00 実践!収支決算書
平成21年10月24日(土) 15:00～17:00 NPOの税務
平成21年 11月25日(水) 19:00～21:00 NPOの登記と労務
平成21年12月 2日(水) 19:00～21:00 資金づくりと助成金
平成22年 1月23日(土) 15:00～17:00 NPO会計ソフト

・参加無料
・各セミナー定員20名程度

●NPOサロン

NPOに関する具体的な個別相談を行っています。
平成22年3月まで(毎週水曜日 18:30～21:00)
※NPOだるま落としセミナー開催日を除きます。
・相談料 無料
・会場 石川県NPO活動支援センター
金沢市広坂2−1−1広坂庁舎4階

お問い合わせ先
NPO法人いしかわ市民活動ネットワーキングセンター(i−ねっと)
〒920−0865 石川県金沢市長町1−3−40
TEL 076-232-6673 FAX 076-232-6674
mail: mail@ishikawanpo-inet.jp

助成金ニュース

ボランティアに関する講習会等助成事業

●助成対象事業
下記の要件を満たすボランティアに関する講習会等。
・県内のボランティアグループ等が主催するもの。
・ボランティア精神の普及や団体等におけるボランティア活動の充実、発展に寄与するもの。
・10人以上の参加者が見込まれるもの。
・参加者から参加費を徴収しないもの。また、徴収金額が必要最小限と認められるもの。
・政治活動や宗教活動を目的としないもの。
・不当な参加資格を設けていないもの。

●助成対象額
講師謝金については原則として石川県の予算単価に準じた額、交通費については実費相当額とし、助成金の総額は5万円以内

●助成金の交付
予算の範囲内で行います。また、同一事業年度内においては、1団体1回限りとします。

●助成金の交付申請
所定の申請書に必要書類を添付し提出します。
※この助成金を受ける際は、必ず事前相談を行うこと
※その他、詳細については下記までお問い合わせください。

お問い合わせ先
(財)石川県県民ボランティアセンター
事務局(担当:湊)
〒920−8558 石川県金沢市広坂2−1−1
TEL 076-223-9558 FAX 076-223-9559
URL: http:/www.ishikawa-npo.jp/volunteer/index.html

平成21年度市民活動助成

●支援種別
助成金
●支援元
財団法人ユニベール財団
●応募地域
全国
●支援対象
高齢者が活動する市民活動団体、高齢者を対象とする市民活動団体、等
●支援金額
原則として上限100万円
●申込受付期間
2009年7月31日まで
●備考
詳しくは下記アドレスまで
http:/www.univers.or.jp/univers.html

Panasonic NPOサポート ファンド 2010年助成事業

●支援種別
助成金、コンサルティングなど総合的な支援
●支援元
パナソニック株式会社
●応募地域
全国
●応募資格
法人格の有無を問わず、日本国内に事務所をもつこと、等
●支援対象
(1) 環境分野:環境問題に取り組むNPOの組織基盤強化に資する事業
(2) 子ども分野:子どもたちの健やかな育ちを応援するNPOの組織基盤強化に資する事業
(1)、(2)とも、人件費を含む必要費用を対象とする
●支援金額
(1) 環境分野 1団体上限 150万円
コンソーシアム 上限 200万円
総額 1500万円
(2) 子ども分野 1団体上限 150万円
総額 1500万円
●申込受付期間
2009年7月17日～7月31日
●備考
詳しくは下記アドレスまで
http://panasonic.co.jp/cca/pnsf/index.html

グリーンプロモーションエコひいき2009

●支援種別
助成金
●支援元
リコー中部株式会社
●応募地域
愛知、岐阜、三重、富山、石川、福井、静岡(一部除く)
●応募資格
原則として、年間事業費が500万円以下の団体・グループ(法人格は不問)
●支援対象
以下の条件を全て満たしている活動
(1) 地域の環境啓発・保全・改善につながる活動
(2) 社員・家族が参加しやすい活動場所
(3) 社員・家族が参加できる具体的な活動計画があること
(4) 助成終了後も活動の継続性や発展性が期待できる活動
(5) 2009年10月までに着手できる事業
●支援金額
1団体20万円+社員・家族などの活動への参加、最大7団体を助成
●申込受付期間
2009年6月1日～7月31日
●備考
詳しくは下記アドレスまで
http://www.epo-chubu.jp

長寿・子育て・障害者基金事業

●支援種別
助成金
●支援元
独立行政法人福祉医療機構
●応募地域
全国
●支援対象
民間の創意工夫を活かした、社会福祉を振興するための事業
●支援金額
地方分助成 上限 200万円
特別分助成 上限 500万円
●申込受付期間
2009年9月1日～10月31日
●備考
詳しくは下記アドレスまで
http://www.wam.go.jp/wam/gyoumu/kikinjigyou/index.html

「あいむ」の会議室、作業室ご利用について

会議室を利用する場合には、利用申込書に必要事項を記入のうえ事務局へ提出してください。
●申込方法/来訪、FAX、電子メール、郵送で申し込みできます。
(ただし、電話による申し込みはできません。)
●申込開始/利用しようとする3ヶ月前
(休館日と重なった場合は、その翌日)
から申し込みできます。
※各団体の利用限度回数は、週1回です。
作業室の利用は、事前に申し込むことが出来ます。
●申込開始/利用しようとする3ヶ月前
(休館日と重なった場合は、その翌日)
から申し込みできます。

●本誌に関するご意見、ご要望をお寄せください。
お寄せいただいたご意見等は、制作に生かすほか、本誌に掲載してまいりたいと考えています。

石川県NPO活動支援センター
〒920−0962 金沢市広坂2−1−1
石川県広坂庁舎2号館4階
TEL 076-223-9558 FAX076-223-9559
URL http://www.ishikawa-npo.jp
E-mail npo@pref.ishikawa.lg.jp

[いしかわNPOニュース]通巻第35号平成21年7月15日発行石川県NPO活動支援センター〒920−0962金沢市広坂2−1−1石川県広坂庁舎4階 TEL076-223-9558

ジュニア VOICE ⑤

石川県内でボランティア活動、NPO活動に参加し、活躍している学生のみなさんを紹介するコーナー『ジュニアVOICE』
第5回目となる今回は「SEP聖高エコプロジェクト」を掲げている大聖寺高等学校環境教育担当 三津野先生にお話をうかがいました。

世界一エコな学校をめざして

地域のエコ、地球のエコ

▲大地を守るミミズをイメージしたSEPロゴマーク

――SEP(エスイーピー)とは? なんでしょうか。

三津野先生●SEP(セップ)と読みます。大聖寺高等学校は地元で聖高(せいこう)と呼び親しまれています。そこで聖高エコプロジェクト(Seiko Eco Project)の頭をとってSEPとし、全校生徒、職員が取り組むエコ活動のことを表すことにしました。

――SEPはどのような活動をしていますか?

三津野先生●大きく分けて2つのことを中心に活動しています。

1つ目は山林ボランティアです。加賀市の山林で下草刈り、間伐、枝打ち、雪起こし、植林などを年3回実施しています。

◀H21.5. 桜の苗木を20本植え、登山道周辺の倒木を伐採除去し草刈り

――実施日は休日ですか?生徒は嫌がりませんか?

三津野先生●期末試験などの試験最終日に実施します。試験は午前で終わり、午後は山林ボランティアです。

初めての時、生徒は気が乗らない様子でした。試験勉強で疲れているし、みんな元気のない顔付きで山林へ向かいました。でもいざ着いたら森のさわやかな空気の中でよい汗がかけました。林業の方々は高齢化で森を手入れしきれなくなっていたので、この活動はとても地域の方々に感謝されました。生徒も「ありがとう!」と言われると嬉しいので帰り道はみんな笑顔です。

三津野先生●2つ目は学校内のエコ活動で、節電、節水、省エネ、省資源に取り組んでいます。ごみの削減に努め、分別は17種類です。

――分別といえば洗わなきゃならないイメージが・・・

三津野先生●そのあたりはできる限りということにしています。ただゴミ分別場は校内にあり、生徒玄関と飲み物の自販機コーナーの間です。つまりゴミが匂ったら自分たちの責任ということなんですね。校内で買ったパンの袋などは校内で捨てていいのですが、コンビニ弁当などゴミになるものは校内に持ち込まないよう指導しています。

▲分別17種類のゴミ分別場

▼空きカップを入れると10円返ってくるデポジット方式機

三津野先生●また飲み物の自販機はデポジット式で、飲み終わった紙カップをカップ回収機に入れると10円返ってきます。このお陰でカップ回収率はほぼ100%。しかもトイレットペーパーにリサイクルされて学校に戻ってきます。

――デポジット方式の自販機を初めて知りました。なぜもっと普及しないのでしょうか?

三津野先生●デポジット方式はヨーロッパではよく普及していますし、最近国内でも導入例が増えてきました。

自分で情報を求めて働きかけて発展することがエコ活動をする上で重要なことだと思います。

石川県立大聖寺高等学校
三津野 真澄さん

【お問い合わせ】
石川県立大聖寺高等学校
石川県加賀市大聖寺永町33−1
TEL 0761-72-0054
FAX 0761-72-5261